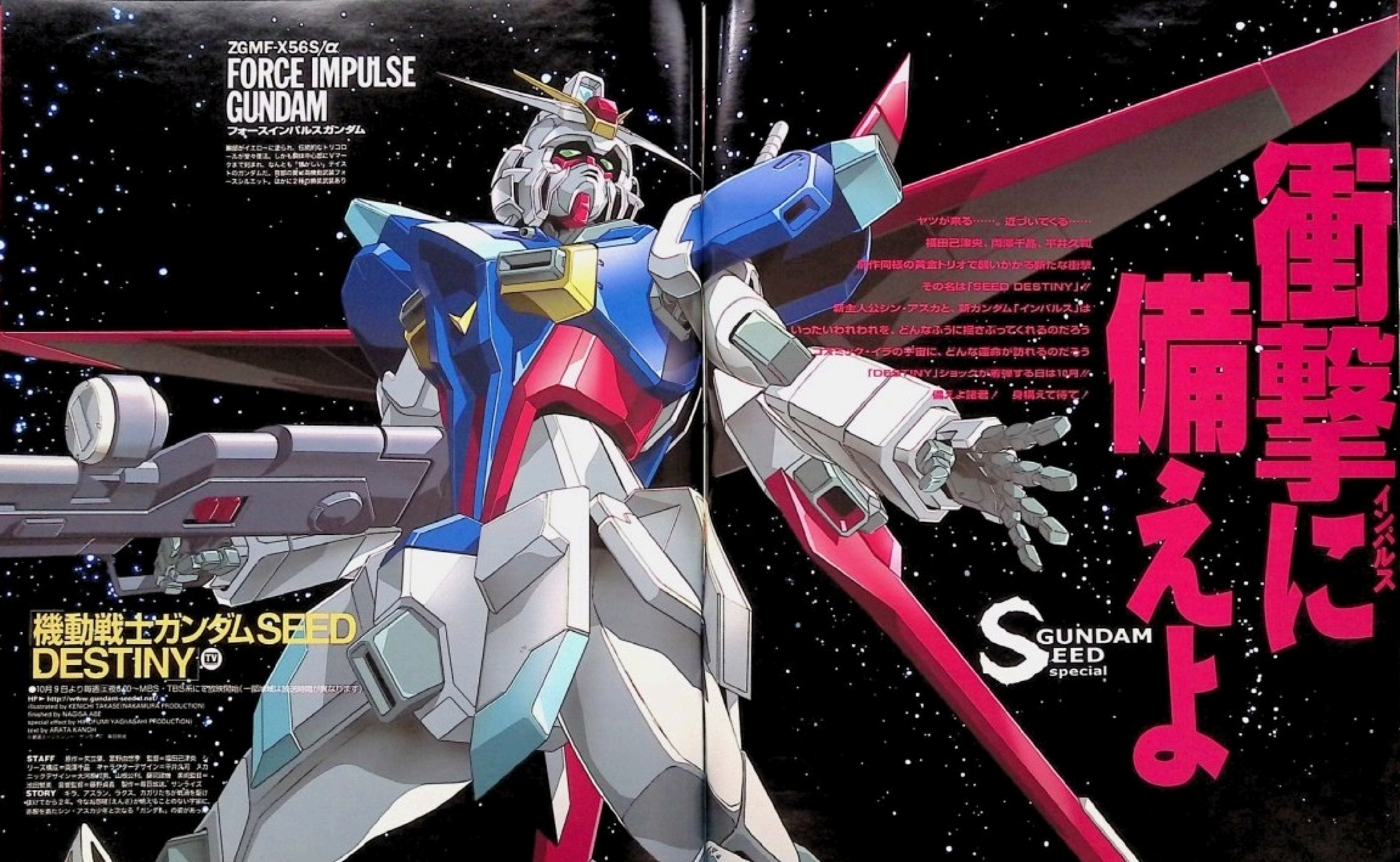


ZGMF-X56S/α

FORCE IMPULSE GUNDAM

フォースインパルスガンダム

頭部がイエローに塗られ、伝統的なトリコロールが全て復活。しかも胸は中心部にVマークで彩られ、なんとも「懐かしい」テイストのガンダムだ。背部の換装式高機動武装フォースシルエット。ほかに2種の換装武装あり

衝撃(インパルス)に備えよ

ヤツが来る……。近づいてくる……

福田己津央、両澤千晶、平井久司

前作同様の黄金トリオで襲いかかる新たな衝撃

その名は「SEED DESTINY」!!

新主人公シン・アスカと、新ガンダム「インパルス」は

いったいわれわれを、どんなふうに揺さぶってくれるのだろう

コズミック・イラの宇宙に、どんな運命が訪れるのだろう

「DESTINY」ショックが着弾する日は10月!!

備えよ諸君！　身構えて待て！

GUNDAM SEED special

機動戦士ガンダムSEED DESTINY (TV)

●10月9日より毎週土曜6:00～MBS・TBS系にて放映開始（一部の地域は放送時間が異なります）

HP▶ http://www.gundam-seed-d.net/

illustrated by KENICHI TAKASE (NAKAMURA PRODUCTION)

finished by NAGISA ABE

special effect by HIROFUMI YAGIHASHI PRODUCTION)

text by ARATA KANOH

STAFF 原作＝矢立肇、富野由悠季　監督＝福田己津央　シリーズ構成＝両澤千晶　キャラクターデザイン＝平井久司　メカニックデザイン＝大河原邦男、山根公利、藤岡建機　美術監督＝池田繁美　音響監督＝藤野貞義　製作＝毎日放送、サンライズ

STORY キラ、アスラン、ラクス、カガリたちが戦場を駆け抜けてから2年。今なお怨嗟（えんさ）が絶えることのない宇宙に、家族を喪ったシン・アスカ少年と次なる「ガンダム」の姿があっ





SPIDERMAN2
JAPAN VERSION
THEME SONG
「Web of Night」
T.M.Revolution

映画『スパイダーマン2』のために書き下ろされた作品。激しさの中にも、どこか哀愁が漂うアップテンポの曲。カップリングには最新作のアルバムから「Tears Macerate Reason」のアレンジ違いと、タイトル曲の英語バージョンを収録

プロフィール●にしかわ・たかのり／'70年9月19日生まれ。滋賀県出身。'96年5月、「独裁-monopolize-」でデビュー。'02年10月、「～SEED」のOPテーマ『INVOKE』をリリース。今年4月にアルバム『SEVENTH HEAVEN』を発表。また10月9日よりTBS・MBS系で放映される「ガンダムSEED DESTINY」のOPテーマが決定している

T.M.Revolution西川貴教、『INVOKE』『Meteor』に続く三度の降臨！

昨年に続きアメリカでのジャパンカルチャーコンベンションに出演。海外での認知度も上昇中のT.M.Revolutionが、映画『スパイダーマン2』とコラボレートした『Web of Night』を発表した。

「アメリカのカートゥーンネットワークで『SEED』が始まって、本編は吹き替えなのに、OPは僕の楽曲がそのまま流れるという異例なことが起こって……。その一方で、ハリウッド映画に楽曲で楽曲を提供するというのが、トータルで見たときにおもしろいなと思ったんですよ。何より本来での挑戦がこういう形で評価されたのはうれしかったですね」

さらに次作では『DESTINY』のOPテーマを歌うことが決まった。

「前回、『INVOKE』が『SEED』を象徴する楽曲であるというようなことばを監督からいただいたこともあり、前作を凌駕するものを提供するんだっていうのが何よりも今回のテーマでしたね。そういう意味では、監督も僕も覚悟しての作品だったし。しかもまた最初のOPなので、『DESTINY』を背負う楽曲になるわけだから。なんかそういう覚悟という点においては、自分から志願して軍に入ったシンと非常にリンクするのかなぁって思いましたね」

彼自身もスタッフも覚悟を決めての作品だけに、期待は高まる一方だ。

「もう間もなく『DESTINY』が世に新たな問題を提起してくれます。どうしても難しく考えがちだと思うんですけど、われわれが提供するエンターテインメントを存分に楽しんで、ぜひまたその世界にどっぷりと浸かってもらえたらいいなと思います。ストーリーの一番の導入部にある曲『ignited』からはまたいろんなものをイメージしていただきつつ、『DESTINY』と新たな運命を築いていきたいと思ってます(笑)」



GUNDAM SEED special

Illustrated by KENICHI ONUKI
Finished by NAGISA ABE

大和(ヤマト)から飛鳥(アスカ)へ

人が生きるために必要な「居場所」をめぐる戦い

まず、キラ・ヤマトの物語を思い起こすことから始めてみよう。

キラはコーディネイターだった。しかし、コーディネイターの共同体「プラント」への参加を再三にわたって拒み、地球連合所属の戦艦に乗艦しつづけた。そこに守るべき友達がいて、自分の居場所があったからだ。

もしそこに、キラの居場所がなかったら、どうなっていただろう。アスランに誘われるままザフトに入隊し、アスランと平和に暮らす「居場所」を守るために必死で戦い、連合の兵士を恐怖で凍りつかせる撃墜王になっていたのではないだろうか。

シン・アスカはまさにそのような境遇にある。去るオーブ攻防戦で自分の居場所をなくし、プラントに流れ着いた。ザフトに志願し、腕を磨き、トップクラスに上り詰めた。

自分から「居場所」を奪ったものに復讐するために。そして今ここにある「居場所」を守るために。

シン・アスカ。彼は、ありえたかもしれないもうひとりのキラなのだ。

次世代

セカンドステージ

MS開発競争は新たな局面を迎えた
5機の新ザフト・ガンダムはいずれも
合体／変形能力を有し、
新量産機は「ザク」の名を冠する……



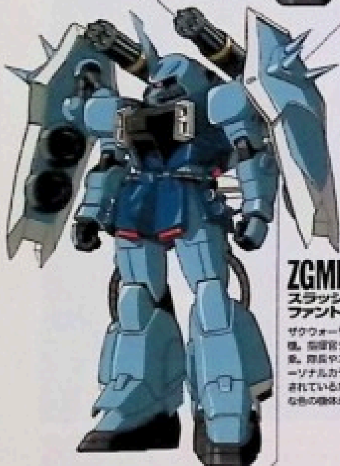
ZGMF-1000
ザクウォーリア

ザフト軍が独自技術により開発した新型汎用MS「ニューミレニアムシリーズ」の第1弾モデル。換装武装、装備変更により高い汎用性を誇る



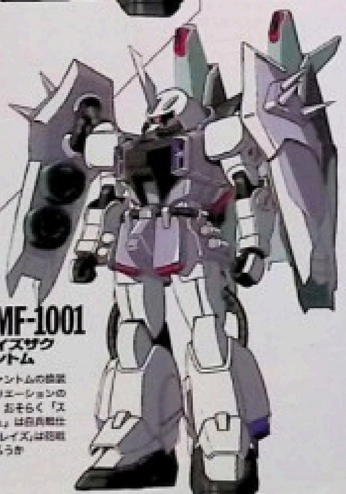
ZGMF-1000/A1
ガナーザクウォーリア

ザクウォーリアの砲戦仕様。高エネルギー長射程ビーム砲「M1500オルトロス」と大容量エネルギータンクを背部に装備している



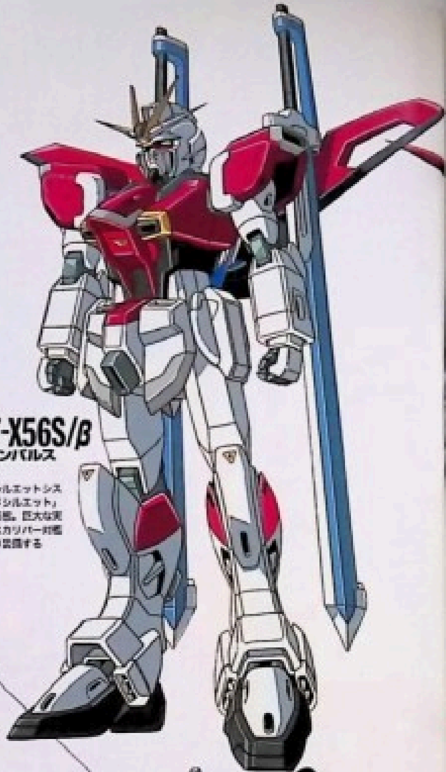
ZGMF-1001
スラッシュザクファントム

ザクウォーリアの上位機。指揮官クラスが搭乗。隊長やエースはパーソナルカラーが許可されているため、多彩な色の機体が存在する



ZGMF-1001
ブレイズザクファントム

ザクファントムの換装武装バリエーションのひとつ。おそらく「スラッシュ」は白兵戦仕様、「ブレイズ」は砲戦仕様だろうか



ZGMF-X56S/β
ソードインパルスガンダム

近接戦闘用シルエットシステム「ソードシルエット」を装着した形態。巨大な実体剣「エクスカリバー対艦刀」を2振り装備する



ZGMF-X23S
セイバーガンダム

戦闘機型MAへの変形機構をもつ高機動型MS。形式番号の「2」は航空系の変形MSであることを示す。武装は不明



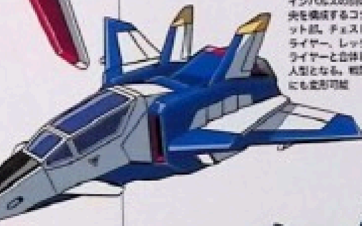
ZGMF-X56S/α
フォースインパルスガンダム

インパルスガンダムがフォースシルエットを装着した形態。高機動戦闘仕様。武装はバランスがよく威力も高いビーム系を携帯する



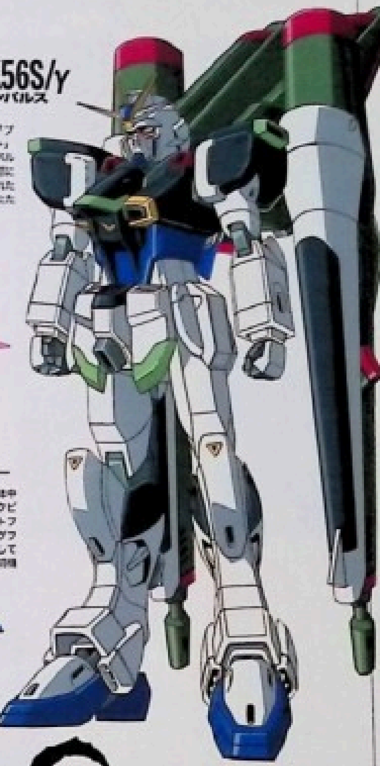
フォースシルエット

インパルスの機動力、運動性能を増強するための追加装備。ストライクガンダムにおけるエールストライカーとほぼ同等の役割を持っている



コアスプレンダー

インパルスの胴体中央を構成するコクピット部。チェストフライヤー、レッグフライヤーと合体して人型となる。戦闘機にも変形可能



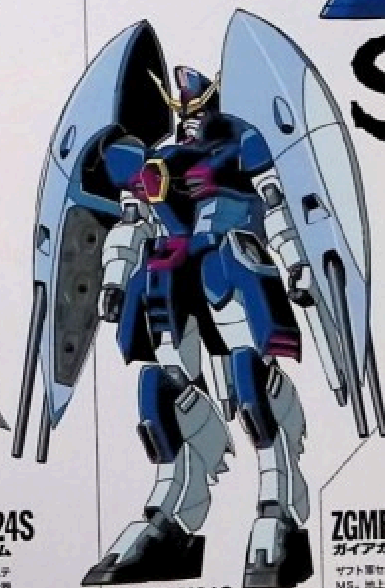
ZGMF-X56S/γ
ブラストインパルスガンダム

砲戦用シルエット「ブラストシルエット」を装着したインパルスガンダム。背部に2門2種装備された主砲が大火力をたたき出す



ZGMF-X24S
カオスガンダム

ザフト軍セカンドステージMS。強力な火器と格闘用クローを装備した強襲型MS。MAに変形する。スティング・オークレーが搭乗



ZGMF-X31S
アビスガンダム

ザフト軍セカンドステージMS。ビーム系武器のほかにも多彩な武装をもつ。水中戦にも対応するMAに変形。アウル・ニーダが搭乗



ZGMF-X88S
ガイアガンダム

ザフト軍セカンドステージMS。地上格闘戦用。形式番号の「8」は四足獣型MAへの変形能力を表わす。ステラ・ルーシェが搭乗する

機動戦士ガンダムSEED DESTINY前夜祭
～全国2万人同時プレミアム試写会～

ニュータイプ&ガンダムエース読者 計300名をご招待！

10月3日(日) 開催

【キーステーション会場】
●東京＝東京国際フォーラム
1回目＝開場：昼1時／開演：昼2時
2回目＝開場：昼4時30分／開演：夕5時30分

【そのほか6都市会場／ブロードバンド配信】
●大阪＝NHK 大阪ホール
1回目＝開場：昼1時／開演：昼2時
2回目＝開場：昼4時30分／開演：夕5時30分
●名古屋＝名古屋市公会堂（夕5時30分からの1回公演のみ）
開場：昼4時30分／開演：夕5時30分
●札幌＝YELL
1回目＝開場：昼1時／開演：昼2時
2回目＝開場：昼4時30分／開演：夕5時30分
●福岡＝電気ホール（夕5時30分からの1回公演のみ）
開場：昼4時30分／開演：夕5時30分
●広島＝YMCA国際ホール
1回目＝開場：昼1時／開演：昼2時
2回目＝開場：昼4時30分／開演：夕5時30分
●仙台＝若林区文化センター（夕5時30分からの1回公演のみ）
開場：昼4時30分／開演：夕5時30分

主催：機動戦士ガンダムSEED DESTINY 前夜祭実行委員会
協賛：NTT東日本、NTT西日本、バンダイ、バンダイビジュアル、バンプレスト、バンダイネットワークス、角川書店

【応募方法】
官製はがきに下記の内容を明記のうえご応募ください。1名様の申し込みにつき2名様ご招待。応募はおひとり様1通のみ。複数応募の場合や官製はがき以外での応募は無効とさせていただきます。
①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 ⑤年齢 ⑥職業または学年 ⑦eメールアドレス（ある方のみ） ⑧参加希望時間（1回目か2回目）

【宛先】
〒102-8078 ㈱角川書店 アニメ・コミック事業部ニュータイプ編集部「機動戦士ガンダムSEED DESTINY前夜祭」試写会○○会場係（○○に希望会場を入れてください）

【応募締め切り】8月20日㈮当日消印有効

■一般応募に関して
「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」公式ホームページ
http://www.gundam-seed-d.net もしくは
http://www.kokodake.net（携帯およびPCアクセス可）
まで今すぐアクセス！
【応募締切り】 9月15日㈬夜6時受け付け終了

月刊ガンダムエース GUNDAM A
DESTINY 10月号の運命やいかに!?

ガンエー編集部の[illegible]です。下の似顔絵は、ガンダム[illegible]を[illegible]、私をひざの上に乗せながら描いてくれました（一部誇張）、[illegible]。そんなことより、ガンダムエース10月号の「SEED DESTINY CHASE」では、主要キャラクターの[illegible]。シンとアスランの[illegible]ルナマリアの[illegible]インタビュー。[illegible]



Illustrated by YOSHIYUKI TOMINO

地球連合軍

地球に住み、人類の大多数を占めるナチュラル（遺伝子操作されていない人類）の軍事同盟。かつてこの上層部は反コーディネイター団体「ブルーコスモス」シンパの構図だったが、アズラエル亡き今はどうなのだろう。



アウル・ニーダ
地球連合軍特殊部隊所属のパイロット。アビスガンダムに搭乗する。彼ら連合パイロットがザフト製ガンダムに乗る理由とは……？

スティング・オークレー
地球連合軍特殊部隊所属。カオスガンダムのパイロット。ステラ、アウルとともにザフト軍の新造艦進水式前夜、プラントに潜入する

ステラ・ルーシェ
地球連合軍特殊部隊所属のMSパイロット。ガイアガンダムの搭乗者。戦闘時には、外見からは想像もできない恐るべき強さを見せる

特殊部隊母艦 ガーディー・ルー
武装や艦の形状に地球連合の特徴が見受けられるが、所属不明の宇宙艦。ミラージュコロイドを装備しているが、ユニウス条約に違反している

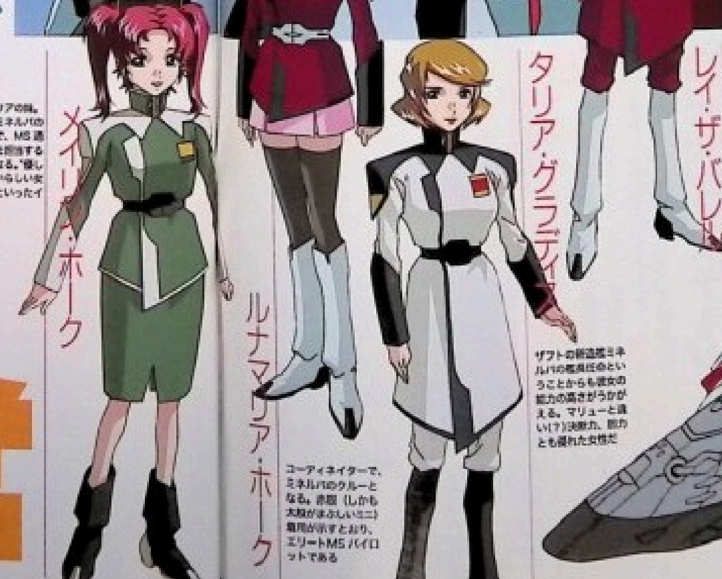




アスラン・ザラ
オーブに亡命し、代表首長カガリの護衛者を務める。パトリックの実子にしてザフト離反者という微妙な立場上、偽名を名のっている

ギルバート・デュランダル
プラント[illegible]議長。シーゲル・クライン[illegible]ミネルバ進水式のためアーモリーワンに[illegible]

シン・アスカ
ザフトのエリートパイロットで、インパルスガンダムの主力パイロット。デュランダルの直衛としてプラント「アーモリーワン」に赴く。17歳



メイリン・ホーク
ルナマリアの妹。同じくミネルバのクルーで、MS通信管制を担当することになる。"優しくかわいらしい女の子"といったイメージ

ルナマリア・ホーク
コーディネイターで、ミネルバのクルーとなる。赤服（しかも太股がまぶしいミニ）着用が示すとおり、エリートMSパイロットである

タリア・グラディス
ザフトの新造艦ミネルバの艦長任命ということからも彼女の能力の高さがうかがえる。マリューと違い(?)決断力、胆力とも優れた女性だ

レイ・ザ・バレル
金髪の美男子はミネルバの搭乗員。高い戦闘力を備える彼は、指揮官機のザクファントムのパイロットである。常に冷静さを失わない

ZAFT

遺伝子調整を行ない、生まれた新人類コーディネイターの共同体「プラント」の軍隊。先の大戦の停戦条約は完全な和平には至らず、連合との間にはいまだ微妙な緊張関係がある。そのため新兵器開発は積極的に行なわれているようだ。



ZAFT宇宙戦艦ミネルバ
セカンドステージMSガンダムを運用するための宇宙戦艦。シン、ルナマリア[illegible]

GUNDAM SEED special

手探の戦いは、ザフトのガンダムに連合の少年少女パイロットが搭乗する戦場の中で、彼らはどんな人間関係にからめとられるのだろうか

連合とZAFT 両陣営



流星群

C.E.71年9月27日、
停戦条約締結
そのころからか？
地球では無数の流星群が
空を飛び交うようになっていた

いくつも光条が南海の空を駆ける それは戦いの傷

間もなく、自然現象の中で最も華やかなショーが始まる。

オーブ連合首長国では、オノゴロ島など戦時下での爪痕がいまだ濃く、人々の心にもぬぐいきれない闇が残った。そのオーブの民の心をひと時ながらもいやしてくれるのが、古代から変わらぬ夕暮。

平和であろうと戦時であろうと戦後であろうと、南海を紅く染める黄昏は、いつでも見る者の心を揺さぶる。ゆらゆらと心が揺れ動くと、底から浮き上がるものがある。底から出てきたものによって、人は涙することがあるかもしれない。今はそんな人が多い時代なのかもしれない。

いつのころからか、その夕景にいくつもの流星が加わるようになった。宵を過ぎても続く流星群は、自然からの贈り物だろうか。いや、それは「争いの残滓」。第2次ヤキン・ドゥーエ攻防戦など、宇宙戦闘から発生した、おびただしいまでのスペースデブリの一部が、地球の重力に引かれた姿だ。美しいが悲しい姿だ。

GUNDAM SEED special

CG works by ENTANIYA















GUNDAM SEED special

SEED 第二章

「スペシャルエディション」のDVDが
8月から3か月間、毎月リリースされる！
サンライズから到着したばかりの
「II」の新作カットを公開しよう

DVD 「機動戦士ガンダムSEED スペシャルエディションII 遥かなる暁」

●DVD「機動戦士ガンダムSEEDスペシャルエディション 虚空の戦場」、8月27日発売／DVD「〜II 遥かなる暁」、9月24日発売／DVD「〜完結編 鳴動の宇宙」、10月22日発売（いずれも約90分、税込5040円、バンダイビジュアル）

HP ▶ http://www.gundam-seed.net/

text by ARATA KANOH



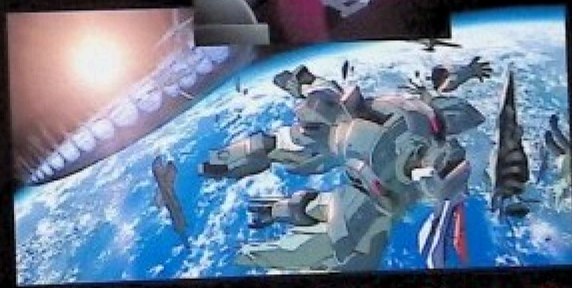
EDのラストカット。地球をバックに2機のG。そして覚醒したカップル2組。キラの、ちょっとワイルドでブラックな服がかっこいい。平井久司独特のデザインセンスが光る





地球へ

TV本編では描かれなかった、アスランとニコルの大気圏突入シーンが追加されている。



フェンス越しの素顔

トップクラスのファン人気を誇る名シーン。トリィに導かれてフェンス越しに再会するかつての親友2人。ザフト側の4人がすぐ近くにいるので2人は友として話せない……。なんと全カットを新作!? 美しいシーンがさらに美しくなった



女たち

地球に戻って地球と宇宙のために動きはじめたカガリ。……これが宿命なのだろうか？



敵軍の中で

ミリィに制止され、ディアッカはAAに参加。重要な役目を担っていく。物語序盤ではにやにやチャラチャラしたろくでもなさそうな印象だった彼も、ここから株が急上昇。「SEED」屈指のナイスガイに成長する



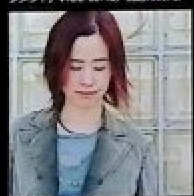
シングルカット決定！

「暁の車」

FictionJunction YUUKA

9.22 on sale

今回の「スペシャルエディションII」EDでも使用され、TV本編「二人だけの戦争」「暁の宇宙へ」の挿入歌として流れたカガリのイメージソングがついにシングルカット。ジャケットイラストは平井久司の描き下ろし（ビクターエンタテインメント／VICL-35715／税込1000円）



「遥かなる暁」にはシリーズ屈指の感動場面がたっぷり

TVシリーズ「ガンダムSEED」本編を特別編集した「スペシャルエディション」。3月に特番として放映された「〜虚空の戦場」に続く第2弾「〜II 遥かなる暁」のDVDがもうすぐリリースされる。

今作でフォローされているのは、砂漠編の後、アスランとニコルが地球に降下するところから、スピットブレイク、オーブ攻防戦を経てアークエンジェルの地球脱出まで。ここには、ファン投票によるベストエピソードランキング（本誌調べ）で上位に入った名シーンがめじろ押しだ。なかでも、カガリとアスランが無人島で2人っきり、いろんな意味でドキドキの一夜を過ごす「2人だけの戦争」、キラとアスランがフェンス越しにもどかしい再会を果たす「キラ」のくだりは、新作カットを投入して大幅にグレードアップ。

「DESTINY」を待ちきれない人は復習に、「DESTINY」から見はじめる人は予習に、じっくり見入ってほしい。

平和の祖国で



オーブに到着したAAとキラ。……

2人だけの島



撃墜されてたまたま同じ島に降りた2人。地球側とプラント側の言い分が、個人レベルで激突する場面。……アスランなど見どころたっぷりです

「クルーゼ隊長はさすがだな、と」

隊長の面目躍如？ ラウ関VS アスラン石田

クルーゼ隊のエースの座を賭けて、ラウ関とアスラン石田が対決！『～SEEDシネマタイピング1＋2コレクターズエディション』がリリースされるのを機に、お2人にチャレンジしてもらった。前作のプレイ経験があるアスラン石田としては、先輩の威厳（役回りとは逆だけど）を見せたいところだが、さて？

石田「ふだん、コンピュータを使っていて、そんなにスピードを要求されることがないので、できなくてもいいかなぁって……（笑）。いや、タッチタイプできたら、できるサラリーマンみたいでカッコイイなとは思うんですけども」

というわけで、先輩の威厳を見せつけることには失敗したもよう。対するラウ関は、SEEDのタイピングソフトは初体験。が、そこは歴戦の勇士であるラウのこと。キーボードとの戦闘経験は、あなどれないものがある。

関「いちばん最初のタイピング経験は、学校で旧式のタイプライターを使ったときのこと。キーを打ちながらしゃべらなきゃいけなくて、そのためにワープロを買って練習したりしていたんです」

そんなラウ関のキーボードさばきに、アスラン石田も「さすが隊長」と見直したようす。それに対して隊長からひと言。

関「隊長は〔難易度〕EASYでしかやりません。『勝てない戦はやらない』ことが戦場で生き残るコツなんです！（笑）」

ところで、コレクターズエディションには、ここで紹介している目覚ましボイスなども特典として収録している。そこで、自分が起こしてもらうなら誰の声で起こされたいか、お2人にも尋ねてみたのだが……。

関「たぶんいちばん起きるのは、電話の呼び出し音だと思う」

石田「電話は起きますねぇ」

関「『もしもし、関さん？ 事務所の者ですが、今、何やってらっしゃるんでしょうかぁ？』と」

石田「いやぁ、怖いですねぇ（笑）」

関「というわけで、いちばん起きやすい声は、事務所のデスクか、マネージャーの声です（笑）」

やはり、人を動かすのに最も効果的なのは『恐怖心』なのか？

では最後に、人の世のせちがらさを知り尽くしたクルーゼ隊長からの、ありがたい訓辞をひと言。

関「『そんなにうまくなってどうするの？』というくらい、やってもらえるといいですね。そうなると、就職難のこのご時世、芸が身を助けることになるかもしれませんよ」

「この緊迫感がSEEDに合ってますよね」

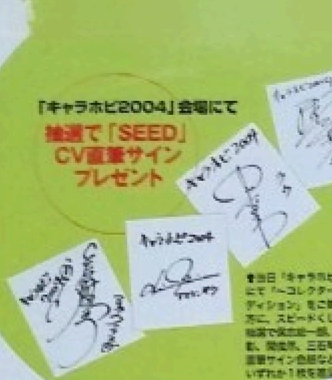
GUNDAM SEED special

shot by ENTANIYA
text by HIDEKAZU KATO



関俊彦
●ラウ・ル・クルーゼ役

石田彰
●アスラン・ザラ役



「キャラホビ2004」会場にて
抽選で「SEED」CV直筆サインプレゼント

↑当日「キャラホビ～」にて「～コレクターズエディション」をご購入の方に、スピードくじにて抽選で保志総一朗、石田彰、関俊彦、三石琴乃の直筆サイン色紙などからいずれか1枚を進呈

機動戦士ガンダムSEED シネマタイピング1＋2 コレクターズエディション

8月21日・22日開催の「キャラホビ2004」（詳しくはP.24参照）にて限定発売（税込1万円、サンライズインタラクティブ／A-94ブース）

HP ▶ http://www.m3e.co.jp/digital/index.html

大好評発売中の「～シネマタイピング」の1と2がセットになって、しかも豪華特典付きで発売。特典は、描き下ろし完全新作ショートストーリーボイス16編、アクセサリーボイス40種以上を収録。ほかにもキラのペンダントヘッド（ラクスが贈ったリング）、ラクスの髪飾り、B2半裁ポスター、フォトフレームなども収録予定。プレミア感満載の内容だ！





↑エクストラステージの敵はもちろんラウ・ル・クルーゼ。同じ遺伝子をもつ者たちの、宿命の戦いが再現される

↓今回は1＆2のセットとなっているので、ムウVSラウのエクストラステージを選択できる。ムウファンはクリアをめざせ！



ショートストーリーボイス

描き下ろしがたっぷり詰まったおまけボイス。NTオススメは、フレイとラウのやりとり。ほかにも本編では絶対聞けないボイスが満載！

CAST キラ・ヤマト＝保志総一朗　アスラン・ザラ＝石田彰　ラクス・クライン＝田中理恵　カガリ・ユラ・アスハ＆トリィ＝進藤尚美　ムウ・ラ・フラガ＝子安武人　ラウ・ル・クルーゼ＝関俊彦　ナタル・バジルール＆フレイ・アルスター＝桑島法子



ちょっとだけ公開！

アスランの目覚ましボイス

「ほら！ もういい加減に起きろ！ 大事な用事があるんだろう？」

「え？ 何でここにいるのかって？ そりゃお前が起きないからだろ」

「ああ、誰に頼まれたわけでもない。この介入は、見るに見かねた俺個人の意思だ。……だからほらもう、お・き・ろ」

アスランとカガリのショートストーリー

「ほら、起きろ、アスラン」

「うう～～～ん……。嫌だ……、もう少し……」

「だめだ、お前！ 逃げるな！」

「……え？」

「起きる方が……戦いだ！」

「そ、そうかぁ……？」



ラウの目覚ましボイス

「さあ起きたまえ……」

「まだ眠られたいか!? 5分、あと5分と！ そんな甘い眠りに踊らされ、いったいどれほどの朝を遅れつづけてきた!?」

ラウとフレイのショートストーリー



「あの……起きてください」

「ああ……君か。どうやら少し寝てしまったようだね」

「疲れてるんですね」

「私とて生身の人間さ。残業につきあい、早朝会議と、ずっとそんな暮らしだ。会社員だからと言われてしまえばそれまでだが……」

「ずっとマスクしたままだから、よく眠れないんじゃないですか？」

「ぐっ!? そ、そうなのか？ いや、確かにそれも一理あるか……」



「薬もたくさん飲んでるし……」

「だが採らないと発作が……」

「健康に悪いですよ？」

「いや……まあ……そうなんだが……」

「気をつけてね、……パパ」

「パパ!? ちょっと待て、その言い方は！ パパって……！ いや、だからな……！」

「え？」

その名はASTRAY
王道からはずれて



YMF-X000A DREADNOUGHT GUNDAM

シナリオ 千葉智宏（スタジオオルフェ）

●…「ガンダム」…シナリオを多数手がける。機動戦士ガンダムSEEDでは「ASTRAY」シリーズの全シナリオのほか、プラモ、ゲームなどで展開中の「SEED MSV」の企画にも参加している

最終決戦前 空白の2か月が 今ここに補完される

TVシリーズを「正伝」とするなら、ASTRAYシリーズは「外伝」的位置づけである。だが、決して別世界の物語ではない。どちらも等しく、コズミック・イラという時間軸を共有し、相互に関与し合いながら紡がれた「本当の物語」なのだ。

「ほかのガンダムシリーズの外伝と違うのは、発表も制作時期もTVシリーズと同じで、サンライズ作品としてつくっていること。TVシリーズのスタッフとASTRAYシリーズのスタッフが、協力というより両方いっしょにつくってるって感じなんですよ。完全にすり合わせてやっているので、一見矛盾するところでもすべて見直せばちゃんとつじつまも合っています」（千葉）

このように、盤石とも思える体制でつくられた「X ASTRAY」だが、意外な面もある。

「もしかしたら綿密に構成された物語に見えるかもしれませんが、たとえば第1話のシナリオを書いた時点で次回がどうなるのか、私もときた洸一先生もまったくわからない状態でやっていました。合いことばは『きっとガンダムの神様が降りてきて啓示を与えてくれるに違いない。なんとかなるよ』という（笑）」（千葉）

こうして、人と神（？）の手によって紡がれた「X ASTRAY」の物語は、地球連合軍がNジャマーキャンセラーのデータを入手してから、その量産に至る、「空白の2か月間」を埋める形で描かれている（TV本編第46～47話の間）。連載も佳境に入り、ザフトと連合の最終決戦も間近に迫っている状況だが、はたして「X」の物語はどのような決着を迎えることになるのだろうか？

「ファンがいちばん気になるのはやっぱり『フレアやカナードは死んじゃうの？』ということでしょうけど、それは読んでのお楽しみということで（笑）。それこそ、ある人が死ぬパターンも生きてるパターンも、いろんなことを考えたんですけど、最後には『これだな』という最終回が用意できたと思います」（千葉）

機動戦士ガンダム SEED X ASTRAY

●「月刊ガンダムエース」（角川書店／毎月26日発売）にて連載中

HP► http://www.gundam-seed.net/

illustrated by YOSHIKAZU SAMURA
finished by STUDIO ALPHA
background & special effect by HIROFUMI YAGI (ASAHI PRODUCTION)
text by HIDEKAZU KATO

STAFF 原作＝矢立肇、富野由悠季 作画＝ときた洸一 シナリオ＝千葉智宏（スタジオオルフェ） ASTRAY & X ASTRAYキャラクター原案＝[illegible] X ASTRAYメカニックデザイン＝大河原邦男

STORY [illegible]フレアは、ドレッドノートガンダムとともにカナードに接触。一方、[illegible]カナードは、ハイペリオンガンダム[illegible]

illustrated by YOUICHI UEDA
finished by AKIKO SHIBATA

それぞれのフィナーレ

おのれの思いを乗せた2機のGが最後の火花を散らす

「X」以前のASTRAYシリーズは、ジャンク屋のロウ・ギュールと、傭兵の叢雲劾を中心に物語が展開された。それを今回、カナードとプレアという2人の少年を軸にした物語に変更した意図は、どこにあったのだろうか？

「ロウと劾はすでにでき上がってしまっているキャラクターで、彼らには謎がないんですよ。『X』で仕切り直すときに、幸いなことに大河原邦男先生がメカデザインしてくれることになって、ガンダムファンはメカに興味があると思うから、最初はメカの謎から入ろうと。そこから、『それに乗っているのはどんな人？』という形でキャラクターに興味がいくように組んでいって、今はキャラクターの外堀が埋まった段階ですね。もう最終回だけど（笑）」（千葉）

こうして始まったカナードとプレアの物語は、最終回もメカと密接にかかわったものとなるらしい。

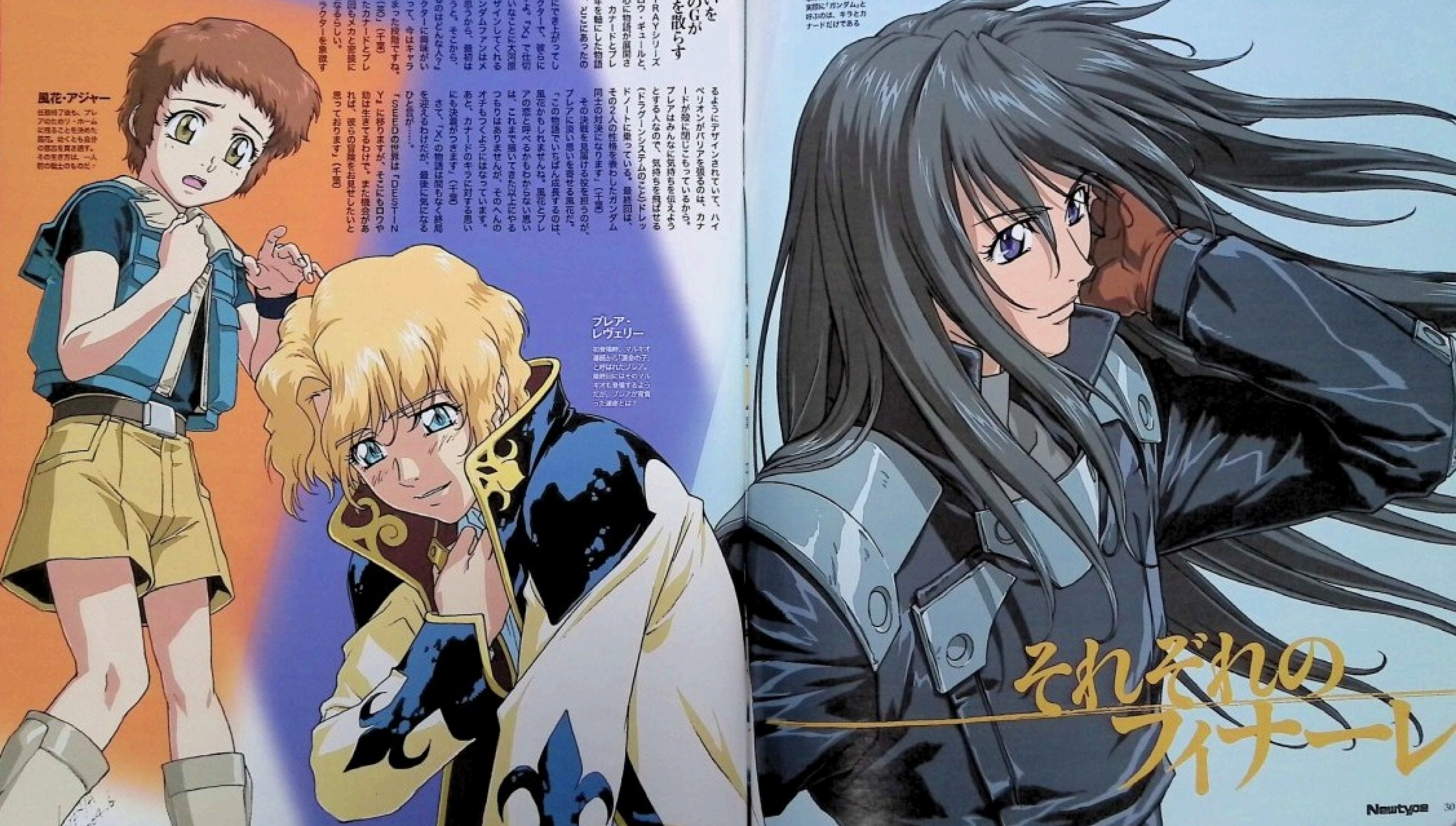
「メカ自体もキャラクターを象徴するようにデザインされていて、ハイペリオンがバリアを張るのは、カナードが殻に閉じこもっているから。プレアはみんなに気持ちを伝えようとする人なので、気持ちを飛ばせる（ドラグーンシステムのこと）ドレッドノートに乗っている。最終回は、その2人の性格を表わしたガンダム同士の対決になります」（千葉）

その決戦を見届ける役を担うのが、プレアに深い想いを寄せる風花だ。

「この物語でいちばん成長するのは、風花かもしれませんね。風花とプレアの恋と呼べるかもわからない思いは、これまで描いてきた以上にやるつもりはありませんが、そのへんのオチもつくようにはなっています。あと、カナードのキラに対する思いにも決着がつきます」（千葉）

さて、「X」の物語は間もなく終局を迎えるわけだが、最後に気になるひと言が……。

「SEEDの世界は『DESTINY』に移りますが、そこにもロウや劾は生きてるわけで、また機会があれば、彼らの冒険をお見せしたいと思っております」（千葉）



風花・アジャー
任務終了後も、プレアのためリ・ホームに残ることを決めた風花。幼くとも自分の意思を貫き通す。その生き方は、一人前の戦士のものだ

プレア・レヴェリー
初登場時、マルキオ導師から「運命の子」と呼ばれたプレア。最終回にはそのマルキオも登場するようだが、プレアが背負った運命とは？

カナード・パルス
キラを殺し、自分が"本物"になることがカナードの望み。ちなみに、ガンダムを実際に「ガンダム」と呼ぶのは、キラとカナードだけである



⬆タクティカルアームズをバルカン砲台に変形。射撃体勢を取るブルーフレームセカンドL。フライトユニットへの変形も自在だ



⬆膨大なボリュームの割にもかかわらず、レッドフレーム同様、ブルーフレームも可動範囲は広い。ナイフ2本を構えるポーズ



⬇タクティカルアームズを背中に装備した図。ボリュームのある背部。一見しただけではこれが剣に変形するとは思えないのでは？



⬅大剣形態のタクティカルアームズなか、コンバットナイフ「アーマーシュナイダー」2本、ハンドガードパーツ2個が付属する



1:100スケール
MBF-P03 ガンダムアストレイ ブルーフレームセカンドL

発売中

ロウ・ギュールのレッドフレームに続き、傭兵・叢雲劾が乗るブルーフレームが、タクティカルアームズ装備のセカンドLで登場。レッドフレームと基本デザインは同じながらも、まったく印象の異なるパワフルなかっこよさは、このキットでも再現されている。最大のウリはやはり本体キットより大きい剣(タクティカルアームズ)。モールドもシャープで、3形態への変形も可能。レッドフレームと並べて飾りたいアイテムだ(税込2625円、バンダイ)

10月発売





1:144スケール
ZGMF-X56S/α フォースインパルスガンダム

価格帯シリーズを打ち出し、新たなガンプラファンを獲得した「SEED」1：144スケールシリーズも「DESTINY」のキットがついに姿を見せた。新開発のダブルボールジョイントの採用で可動の自由度が広がり、より人間に近いポージングが可能になった。写真は塗装済みだが、キットは5色の成型色で再現。ガンダムマーカーを使用すれば、より設定イメージに近づけられる(価格未定、バンダイ、同スケールのザクウォーリアも10月発売予定)

⬅背部にフォースシルエットを装備。取り外し可能で、ラインナップとしてソードやブラストといったバリエーションも期待できそう？



⬆よりスマートな印象の背面。翼の表面を走るディテールが、単なる「鉄板」ではないという説得力がある。頭部は自由に動かせる



⬇ヒジ、ヒザ、股関節など、可動範囲も広い。写真のように両手でビームライフルを保持するポーズも思いのまま。遊べるプラモデルだ



MGシリーズ1:100スケール
ZGMF-X10A フリーダムガンダム

発売中

エールストライクガンダムに続く「SEED」MG第2弾。本編初登場から見せた「ハイマットフルバーストモード」、翼を広げて4つの砲を同時展開させる姿も再現できる。ディスプレイスタンド付きなので劇中のポーズも自在だ。シールド裏など行き届いた細かなディテールはMGの真骨頂。MGオリジナルマーキングも付属するので、ガンダムマーカーと併用すれば手軽にハイクオリティモデルが完成できる(税込3990円、バンダイ)



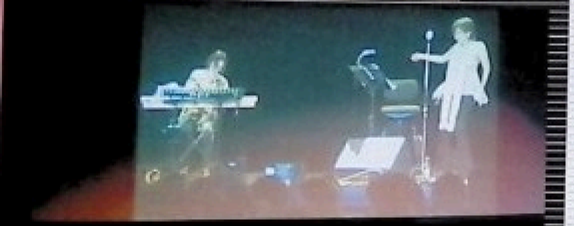
⬆MGならではの内部フレームも再現。ビームライフル、ビームサーベル、シールドのほか同スケールのキラ・ヤマト2種付属

ビルドアップガンダム！

外は酷暑！ ならばマイルームでマイガンダムを
組み立てれば、暑さも忘れる楽しさ！
さあ、夏の新作をビルドアップ(集結)させよう

GUNDAM SEED special

アニマジック2004







From KOBLENT in GERMANY

会場は中世のお城！ 世界でいちばん絢爛豪華なイベント

[illegible]





↑『ファイナルファンタジー』シリーズでおなじみのサボテンダー [illegible]、ディズニーキャラクターのコスプレ [illegible]

[illegible]





コスプレを見ればヒットがわかる!?

「Newtype USA」を出版しているADV東京支社の代表取締役である岩上氏によれば「コスプレが多いものほど当たる」と言われているそう。今年、数が多くて目立っていたのは、昨年に引き続き「犬夜叉」「トライガン」「NARUTO」。先のコメントを裏付けるものとして、会場投票によるベストTVアニメ賞（Best TV Show US Release）は、堂々「犬夜叉」が受賞。また、オッと思ったコスプレは、右写真のような「日本の女子高生コスプレ」。アメリカの普通の女子高生が、普通の格好で来てるのかと思ったら大間違い。「バトル・ロワイヤル」以降こんなコスプレまで大流行。岩上による予測によれば、次に来そうなのは11月にDVDが発売される「鋼」。今年はまだ少数派だった「鋼コスプレ」が来年は会場を埋め尽くす!?

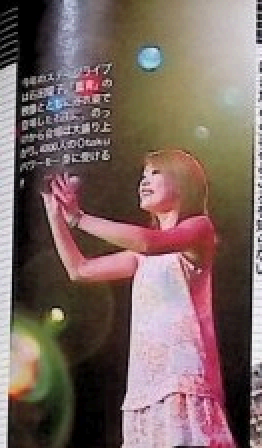




↓こちらは大胆にも「アルコスプレ」かと思いきや日本の等身大アルがはるばるアメリカ出張中でした。[illegible]イベントを満喫







今年のスペシャルライブは[illegible]の[illegible]。[illegible]パワーを受ける

目で見えて肌で感じられたその漲るパワー！

こちらカリフォルニア州アナハイム、ディズニーランドで[illegible]

今年のファン層、[illegible]とは明らかに変わり[illegible]子の増加と年齢層[illegible]ニュータイプ誌の昨今の[illegible]化と一致してるかのよう[illegible]らでの変化の大きな理由は[illegible]gaの普及。多くのManga[illegible]しているTOKYOPOPの躍[illegible]るところが大きいが、Mangaか[illegible]ってAnimeに流れてきた層、その[illegible]やもはや会場で見て取れるほどの[illegible]のだ。

数の増加、層の広がり、に加えて忘れちゃいけないのが、その熱気という本気度！ どこのパネルに行っても驚かされる「質疑応答」タイム。日本だったらぽつぽつ、ときには誰も質問しなかったりするところだが、こちらでは質問の嵐はタイムアップまでやむことはない。「アニメの祭典」はまだとどまるところを知らない。

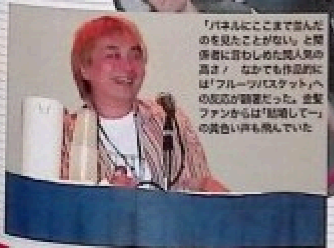
アニメエキスポ2004



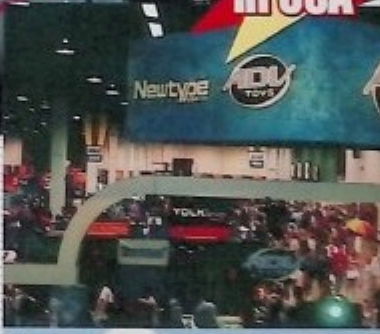
NEW PHASE

アニメは新しい段階へと突入した。ファンの間、制作者の間、制作と配給の間、あらゆる"間"にあるつなぎ目が消え、大きなうねりが生まれつつある。そんなエネルギーが満ちあふれる舞台を紹介する

From ANAHEIM in USA



「パネルにここまで並んだのを見たことがない」と関係者に言わしめた同人気の高さ！ なかでも作品的には「フルーツバスケット」への反応が顕著だった。金髪ファンからは「結婚して一」の黄色い声も飛んでいた



↑毎年のことながら驚異の盛り上がりを見せていたADVブース。1時間ごとに行なわれるTシャツ投げ[illegible]の時間帯にはもうあふれんばかりの人、人、人。ベストブース賞も獲得した
↓日本のお祭りの雰囲気を出すためにGONZOは会場内に縁日コーナーを運営。ブースの大盛況ぶりにご満悦でご覧の[illegible]（右から3番目）



ヒートアップするOtakuたち





Cinemaに胎動する 新たな試み

ヴェネチア国際映画祭クロージング作品として上映決定!

ついに公開された『スチームボーイ』。初日舞台あいさつにおける「続編製作決定!」の発表も驚きだったが、新たな大ニュースが発表された。9月に開催される世界3大映画祭のひとつ、ヴェネチア国際映画祭のクロージング作品に『スチームボーイ』が選ばれたのだ。世界から熱い注目を浴び、さらなる飛躍を遂げようとしている『スチームボーイ』の[illegible]について、渡辺繁エグゼクティブ・プロデューサーに聞いた。「ヴェネチア国際映画祭は、配給会社を通じてこちらから働きかけようと思ったやさきに、先方から『クロージング作品として参加はどうか?』と声をかけていただきました。理由は『リスペクトされるべき作品である』ということだそうです。オープニングが、スピルバーグの『ターミナル』ですから、主催者側がどれくらいこの作品を評価してくださったかがわかります。すごいことだと思います。映画祭には、大友克洋監督と私、それに鈴木杏ちゃんの3人で行く予定です」映画祭だけでなく、世界各国での公開も決まっている。その国の数の多さは、この映画を待望している人の数の多さでもある。

「台湾、香港、シンガポールは配給会社を決めている最中で、韓国はすでに契約は終わっています。フランス、イギリス、ドイツ、イタリア……いわゆる西ヨーロッパの多くの国での公開も決まっています。フランスでは特に関心が高く、映画雑誌の企画で、『スチームボーイ』にからめてメビウス(世界中の漫画家に影響を与えたフランスのコミック作家・映画監督)と大友さんの電話対談が実現したりしています。それからアメリカ公開は、12月にまず2時間6分の全長版をアート系劇場で公開し、年明けからファミリー向けに100分ほどの長さに再編集したバージョンを上映する二段構えです。12月に公開するのは、ずばり2005年のアカデミー賞を視野に入れているからです。現在、キャスティングが最終選考中で、祖父ロイド役の候補に、ピーター・オトゥールやパトリック・スチュワートが挙がっています」

ピーター・オトゥール(映画『アラビアのロレンス』のロレンス)やパトリック・スチュワート(映画『スター・トレック』のピカード艦長)といえば、どちらもイギリスを代表する名俳優。優雅な英国紳士は『スチームボーイ』の重厚なビジュアルとマッチするはずだ。

また気になる『続編』については「また映画かTVになるかは未定ですが、スチームボーイのその後の活躍を描く内容で、スカーレットは『スチームガール』として登場する予定です。スタッフもさまざまなノウハウを積みましたから、彼らがこの作品を舞台に大きく羽ばたけるようになればと思い、今度は2~3年後には形にしたいですね」とのこと。写真(左上)のスチームボーイが活躍するその姿を描いたエンディングのワンシーンのような迫力ある映像が期待できるに違いない。

「制作中には、バンダイとセガの合併騒動も含め、何度か『もうだめだ』と思ったこともありました。でもようやく公開したからといってこれで終わりではないんです。『スチームボーイ』は生まれたばかりですから、これからもっと大きな子供に育てていかなければならないと思っています」

大きい子供を育てるならば、広い世界ほどふさわしい場所はない。

渡辺繁

●わたなべ・しげる/エグゼクティブ・プロデューサー。バンダイ入社後、玩具の開発を経て、フロンティア事業部でEMOTIONレーベルを設立し映像ソフト業界に参入。『王立宇宙軍 オネアミスの翼』『GHOST IN THE SHELL/攻殻機動隊』『人狼JIN-ROH』など国際的規模の劇場アニメ大作を多数製作している

スチームボーイ

●日比谷映画ほか全国東宝洋画系にて公開中
●『スチームボーイ公式ガイドブック』発売中(税込1575円、角川書店ニュータイプ編)、『スチームボーイ an adventure story of STEAMBOY』発売中(原作=大友克洋 著=村井さだゆき、税込1470円、角川書店刊)
HP▶ http://www.steamboy.net/

text by RYOTA NEZU

miniレポート



初日の舞台あいさつに現われた小西真奈美、鈴木杏、渡辺繁。続編の発表に杏ちゃんは「絶対出演したい」、小西も「本当ですか」と大乗り気だった

ワンダフルデイズ

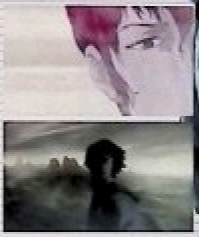
●韓国製作アニメ、ガイナックスが日本語吹替版を手掛け日本でも公開予定

text by FUYU KAKATA

STAFF 制作=TIN HOUSE 監督=キム・ムンセン 日本語版脚本・演出=山賀博之 日本語版プロデューサー=武田康廣 日本語版配給=GAINAX

STORY 西暦2142年、地上は常に暗い雲に覆われていた。選ばれた者たちの都市エコバンとエコバンに住むことを拒否された者たちの町マール。2つの都市は争っていた。マールの抵抗組織で活動するスハは、エコバンの心臓部の潜入に成功したが、[illegible]かつての恋人ジェイが現われる。敵味方としての再会だった





ローカライズされた韓国発のアニメが日本上陸!!

韓国でつくられた劇場用アニメ『ワンダフルデイズ』の、日本語版脚本、演出を手がける山賀博之。この作品は、敵味方に分かれた恋人たちが再会し、揺れ動きながら戦うというラブストーリー。「冷めた視点で描かれたロマンチックなストーリーで、ベタすぎず、クールすぎない感じがいいので、日本語化するときもそこは大事にしたい」と語る山賀。そもそも、なぜ、この作品をガイナックスみずから買いつけて配給し、しかも字幕ではなく、わざわざ日本語吹き替えをするのだろうか? 山賀が韓国に行った際、映像見本市で流れていた今作を見てひと目でひかれたわけは「いろいろな技術を試しているところや、芝居のつけ方など、どこか『王立宇宙軍 オネアミスの翼』でやりたかったことに似ている気がしたから。『突飛な演出を組みこんだりしていて、一見、むちゃくちゃな……』と思われかねないのですが、つくり手があえてやっているのがわかるんです。そこにひかれました。監督が狙っているのは単なる『アニメーション』ではない、もっと先にあるものだと感じました」。ガイナックス20周年記念プロジェクトのひとつに今作が名を連ねた意味が納得できるような気がする。とはいえ、なぜ日本語吹き替えに? 「ローカライズがちゃんとできるのがアニメのよさだと思います。日本のアニメが海外に輸出されたとき、たいていは向こうのことばで吹き替えされているので、日本の作品だとは思わず、自分たちの国の作品だと思うんですよ。そもそも、僕はこれを韓流アニメだと思ってないというか、韓流アニメだということで売っていこうと思わないんです。ひとつの作品として、[illegible]日本の人に[illegible]ようにしたい。それで、日本語に吹き替えするという形でした。西欧文化よりは、同じアジア圏でもあり、微妙なニュアンスも翻訳しやすいとか。ストーリー自体がシンプルだし、登場人物にも感情移入しやすい。作品の特性である熱さとクールさが、薄まってぬるくなることなく、距離感を出した演出を心がけたいですね」

さて、山賀絶賛の今作の韓国スタッフだが、今後彼らとゼロから企画を……なんていう可能性もあるのだろうか?と聞けば「それはちょっとわからないですねぇ」とのこと。では、今後も、海外アニメの興行を続けるのか?との問いには「同じことをもう一度やるのはエキサイティングじゃないですから」。その先取り、オンリーワン感覚こそがガイナックス魂のひとつでもあり、その野望は海外にも広がっていく!?

山賀博之

●やまが・ひろゆき/GAINAX初の長編アニメ『王立宇宙軍 オネアミスの翼』監督。『新世紀エヴァンゲリオン』制作。『王立宇宙軍』以後、裏作の人だったが最近はアニメ『アベノ橋魔法☆商店街』『まほろまてぃっく』なども監督し、今作では日本語版脚本・演出を手掛ける。ガイナックス設立スタッフのひとり

新暗行御史

●日韓共同製作アニメ今秋公開予定

text by RYOTA NEZU

STAFF 原作:尹仁完、梁慶一(小学館刊『月刊サンデーGX』連載) 監督=志村錠児 キャラクターデザイン・総作画監督=[illegible] 制作=OLM・CHARACTERPLAN

CAST 文秀=藤原啓治 山道=小林沙苗 [illegible]=宮本充 [illegible]=朴璐美

STORY いにしえの国、朝鮮(ジュシン)に「暗行御史(アメンオサ)」という隠密官吏がいた。彼らは王の特使として地方に地方を回り、悪政を糾弾し、民を救う最後の[illegible]であった。だが、その祖国が滅んだ今……いまだひとりの暗行御史が[illegible]をさすらっていた



日韓共同製作・両国公開という新たな可能性

日韓で共同製作し、両国でほぼ同時に公開される画期的なプロジェクト『新暗行御史』。同作は『月刊サンデーGX』で連載中だが、作者は、原作・尹仁完(ユン・インワン)、作画・梁慶一(ヤン・ギョンイル)という韓国コンビ。2人は、日本の雑誌で漫画を連載したいと考え日本の出版社にコンタクトを取り、この連載をスタートさせた。この企画の成り立ちについて、プロデューサーの加治屋文祥はこう説明する。「連載が始まった当初からそのストーリーや画力に注目が集まっていましたが、この作品は逆輸入の形で韓国でもコミック連載されていることもあり、ならば日韓両国で上映できるような映画にしよう、ということで共同製作が決まりました。韓国ではまだ日本製アニメの劇場公開が映画祭受賞作を除いて開放されておらず、スタッフや資本の割合などの条件をクリアして韓国産と認定されないと上映ができないのです。ですから韓国産と認定される作品をつくるのがひとつのポイントでした」。韓国側の制作会社はCHARACTERPLAN。制作にあたっては日本の制作会社であるOLMを訪れての打ち合わせも行なわれた。

原作者は『超時空要塞マクロス 愛・おぼえていますか』を見てインパクトを受けたという世代。アニメ化にあたっては、志村錠児監督との間でもいろいろやりとりがあった。

「ことばが違うので、コミュニケーションの問題も確かに最初はありましたけれど、最終的には原作2巻をもとに物語をまとめることになりました。連載段階で、日本の編集者も交えさまざまな視点から完成させている作品なので、それほど悩むことなくアニメ化することができました。両国からはアジアっぽい雰囲気が出るといいのですが」とは志村監督。

2006年には日本製アニメの開放が予定されている韓国。加治屋は「これからはもっと日韓が接近し、こういう企画は増えてくるのではないでしょうか」と話す。

志村錠児

●しむら・じょうじ/監督。今作が劇場アニメの監督初挑戦。主な演出・絵コンテ作品は『マスターキートン』『花田少年史』など

加治屋文祥

●かじや・ぶんしょう/プロデューサー。小学館入社後、雑誌編集を経て、'03年7月からキャラクター事業センターCP課課長

